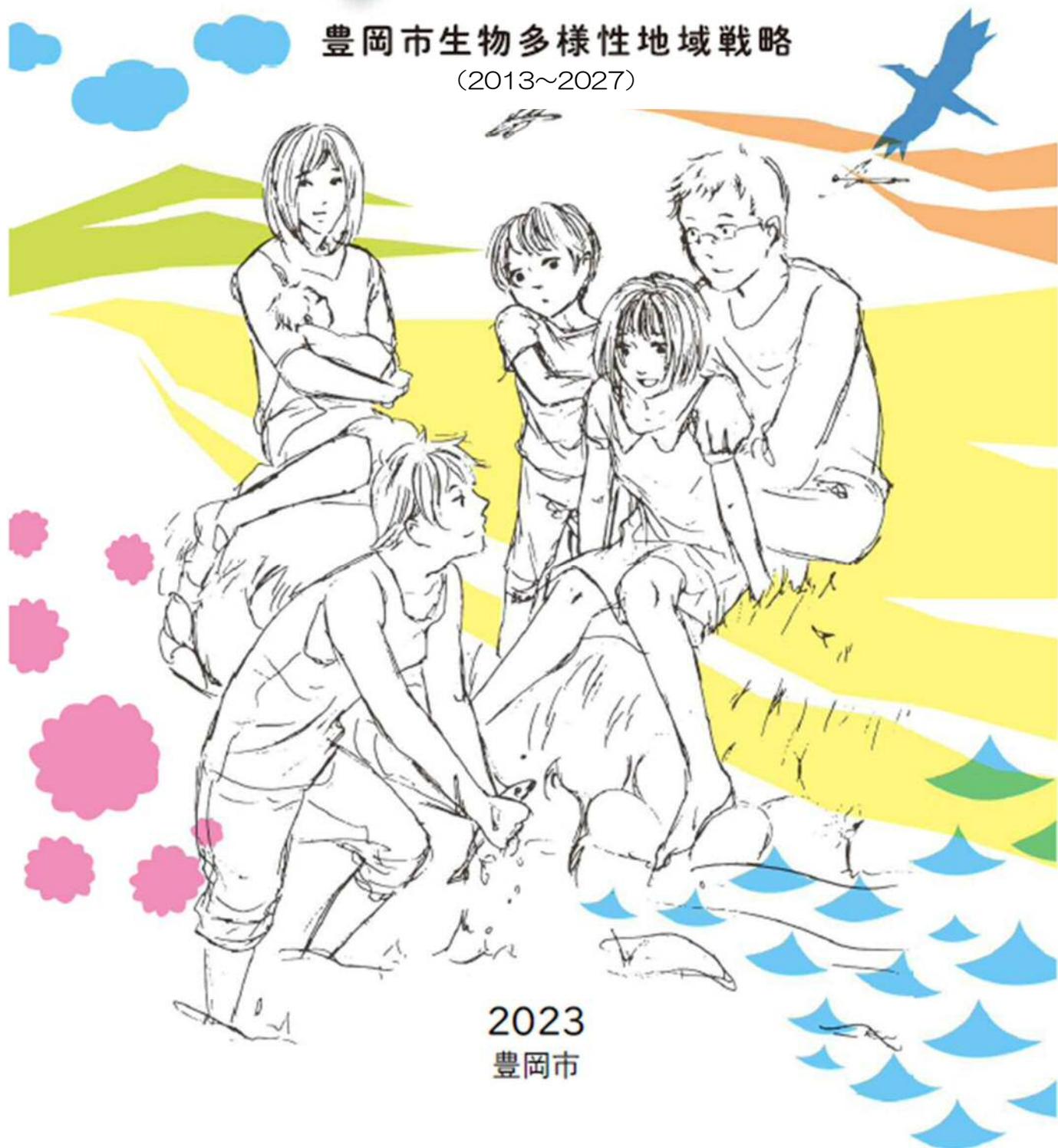


短期戦略Ⅲ（2023～2027）

いのち響きあう 豊岡をめざして

豊岡市生物多様性地域戦略
(2013～2027)



2023
豊岡市

豊岡市生物多様性地域戦略の改訂にあたって

豊岡市生物多様性地域戦略に取り組み10年が経過しようとしています。

これまでの短期戦略Ⅰ（2013～2017）、短期戦略Ⅱ（2018～2022）では、民間との協働により着実に進んでいる取組みがある一方で、地域戦略の周知や、働きかけが十分でないため進んでいないものや、理念的な内容となっている項目では着手できていないものもありました。

また取組みに対する具体的な数値目標を設定していなかったため、現状数値の把握も十分でなく、進捗状況を適切に評価することが難しくなっていました。

市民の生物多様性に対する関心の低さや人手不足、そして着実に戦略を進めるための体制の整備等、改善していかなければならない点はたくさんあります。

それらも踏まえ、今回の改定では、学識経験者、各産業分野に携わる方々、行政機関の職員等幅広い分野の皆さまに参画いただき、下記の方針に基づき短期戦略Ⅲ（2023～2027）を策定しました。

1. 骨格は維持する

15年間の地域戦略期間中であることから、当初設定した目標とする姿や基本戦略等は踏襲する。

2. 第一次産業の価値を評価する

食料や生活資材等の供給の場としてだけでなく、景観の維持も含め、第一次産業従事者の生業の結果が生物多様性の保全に大きく貢献していることを評価する。

3. 具体的な計画とする

取組内容が分かりやすい具体的な内容とする。

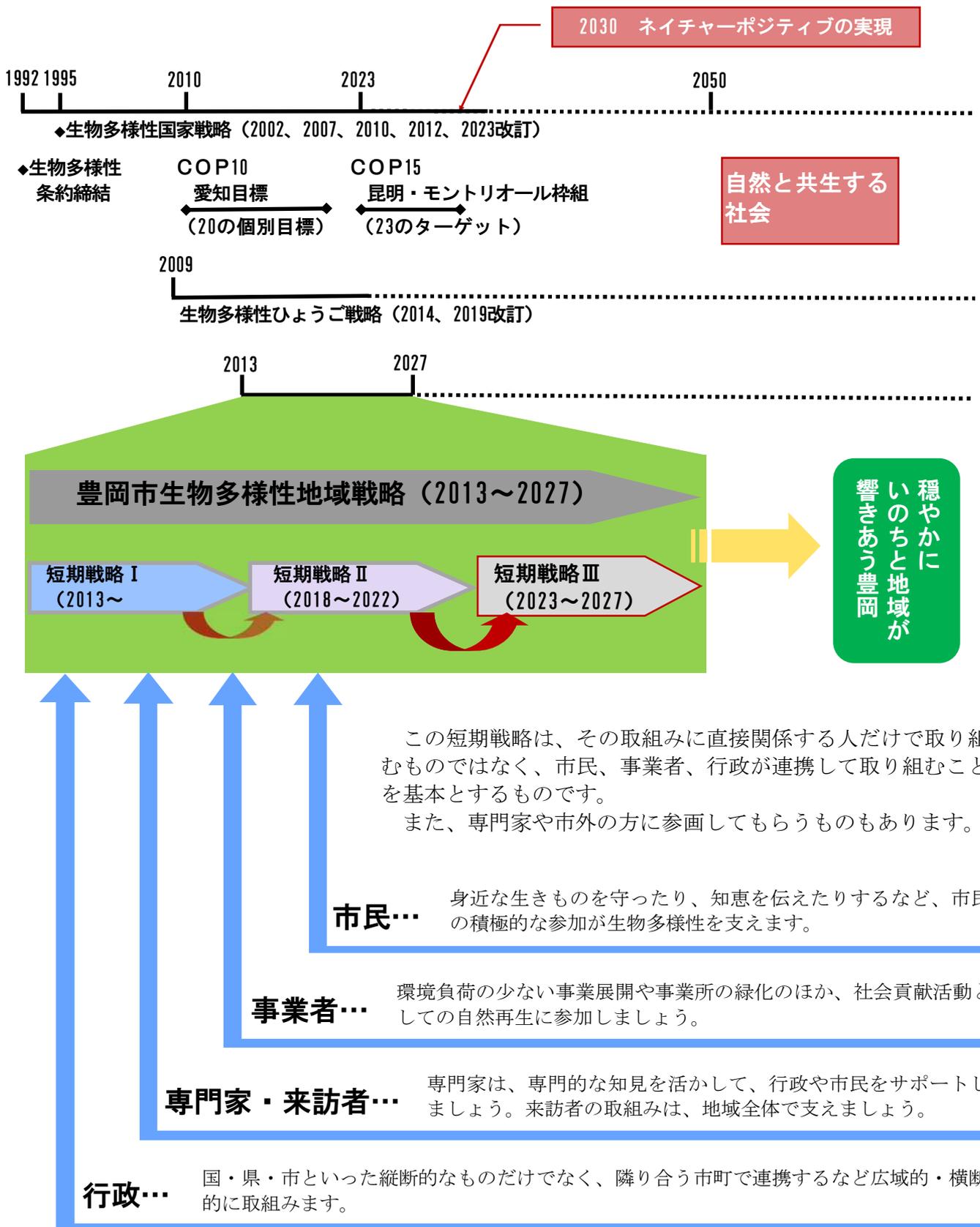
4. 数値目標を設定する

いくつかの目標となる数値を設定するとともに、年度ごとの現状数値が把握しやすい内容とする。

5年を一つのサイクルに 段階的に戦略の充実を図る

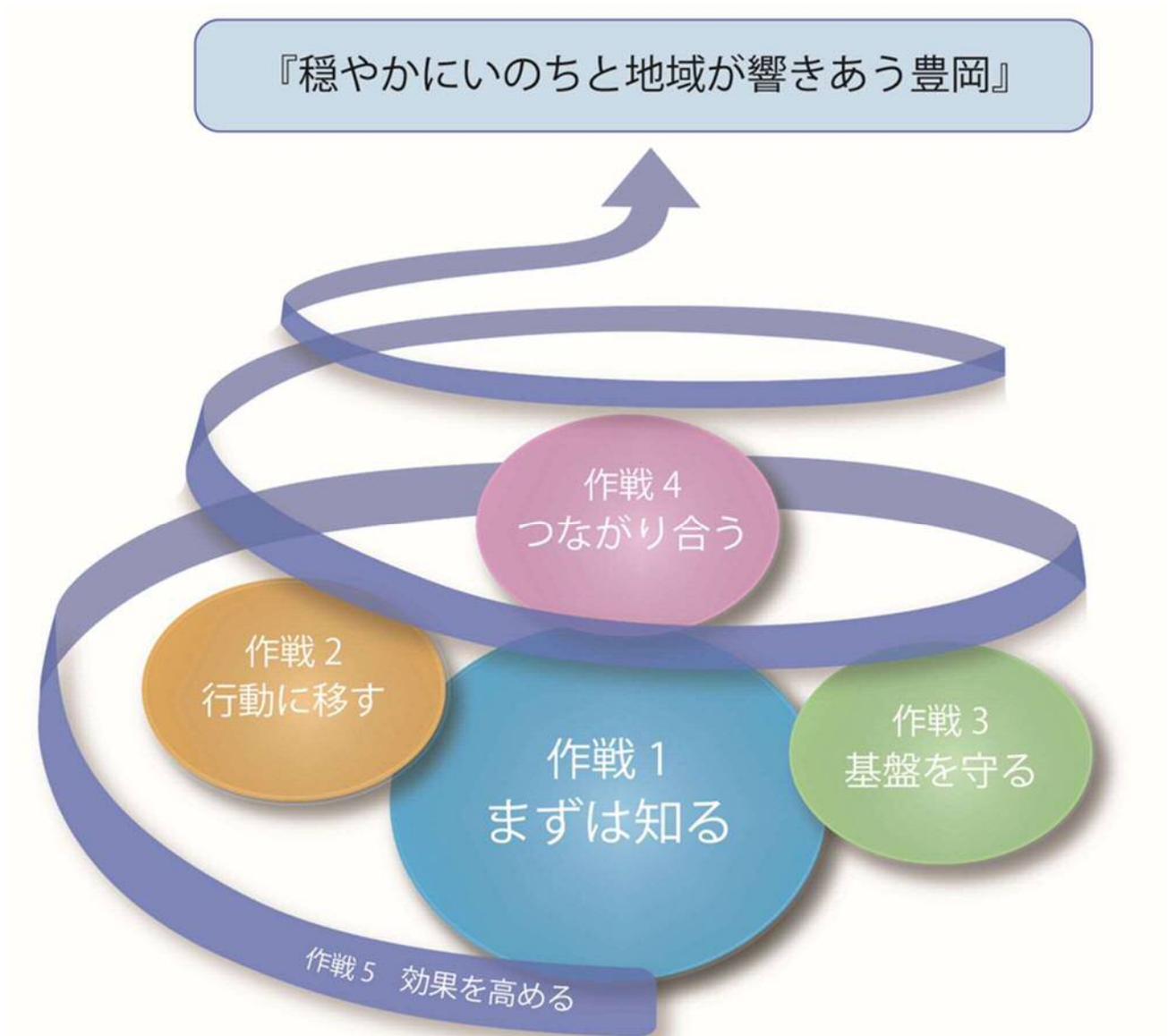
2013年に2027年度の目標像の実現に向けた地域戦略を策定し、5年ごとに短期戦略を定めて段階的に進めてきました。

10年経過したことから、進捗状況や自然・社会・文化環境の変化に基づいて見直し、次の5年間の戦略を立てました。



地域戦略の目指す姿

各取組みを効果的に実施していくことで、地域戦略の目指すべき姿である「**穏やかに響きあ**
う いのちと地域」を目指していきます。



第1章 短期戦略Ⅲ(2023~2027)における具体的な取組み

〈作戦1〉「まずは知る」作戦! 地域みんなが、地域の自然の豊かさやもろさを分かるようにします。	関係するコミュニティ活動						
	学校・PTA	地域・市民	団体	専門家	農林水産業	事業者	行政
目標1. 生きものの様子から季節の変化を感じ取り、その話題で会話が弾んでいます。		○	◎	○			◎
①豊岡に住む動物や植物の市民調査を実施します。		○	◎	○			◎
②豊岡らしい季節のことばを集めた「豊岡時候のあいさつ集」を作成します。			◎				
③季節の特徴的な動物や植物の観察会を開催します。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
④「生きもの共生の日」を浸透させます。		○	○				◎
目標2. 「生きもの博士」と呼ばれる人が増えています。							
①「豊岡生きもの博士」の登録制度を開設します。			◎	○			○
②継続的な観察会等を通じて「生きもの博士」を育成します。			◎	○			○
③子どもたちにさまざまな自然体験ができる場を提供し、未来の「生きもの博士」を育成します。			○	○			◎
④豊岡の環境保全に寄与する研究活動を支援します。							◎
目標3. 地域の生きものの現状をみんなが知っています。							
①アプリ等を活用して、生きもの情報の見える化を図ります。	○	◎	◎	◎			◎
②見える化された生きもの情報を公共工事や自然再生の取組みに活用します。		○	◎	○			◎
③「コウノトリ市民科学」等を活用し、情報を収集・発信します。		○	◎	◎			
④森里川海のつながりを知り、生態系への理解を深めます。		◎			◎		○
目標4. 小学校区ごとに「生きもの地図」が備えられています。							
①地域や学校と連携して、地域の「生きもの地図」の作成に取り組みます。	◎	◎	◎				
②「生きもの地図」の作成、活用に関する支援を行います。			◎	◎			◎

〈作戦2〉「行動に移す」作戦! 多様な生きものが住みやすい環境を増やします。	関係するコミュニティ活動						
	学校・PTA	地域・市民	団体	専門家	農林水産業	事業者	行政
目標1. 行政も地域も、生きものに配慮した行動を心がけています。							
①県が策定した「生物多様性配慮指針」を公共事業や自然再生の取組みに活用します。		○	○			○	◎
②生物多様性保全のためにも「豊岡市景観計画」を推進します。		○				○	◎
③生物多様性を意識した行動をとる市民を増やします。		○					◎
④生物多様性の保全に取り組む企業・団体等を増やします。		○	◎	◎	○	◎	◎
⑤里山や水辺等で小さな自然再生の取組みを進めます。		◎					○
目標2. 豊岡で暮らすコウノトリたちが、安定して生活しています。							
①コウノトリの生息環境の質を向上させます。		◎	○	○	◎		◎
②見守り等を通じて、野外のコウノトリと地域との関わりを生み出します。			○	○			◎
③「豊岡自然再生アクションプラン」に基づき、地域と連携した自然再生に取り組みます。	○	◎	◎	◎			◎
目標3. 市街地・住宅地でも多くの生きものと触れ合っています。							
①プランターや庭で緑を生み出します。		◎					
②神社や公園が緑や生きものの拠点として機能するよう維持します。		◎					
③公共施設や都市公園等を「水と緑の回廊」として機能させます。							◎
目標4. 生物多様性の保全が図られている区域が増えています。							
①生物多様性の保全が図られている区域を拡大します。			◎	○		◎	◎
②ラムサール条約登録エリアにおける保全やワイズユースの取組みを充実させます。			◎	○	◎		◎
③地域や学校教育で豊岡が国際的評価を得ている地域であることへの理解を深め、誇りを醸成します。	◎	◎			○		◎
目標5. 在来の生態系を乱す外来種の侵入・増加を防いでいます。							
①生態系に影響を及ぼす外来生物の駆除方針を定めます。			◎	◎			◎
②外来生物に対する知識を深め、効果のある対策を講じます。			◎	◎			◎
③豊岡版ブラックリストを用いた学習会を開催します。			○				◎
④外来生物への対策を強化するエリアを決め、積極的に駆除します。		◎					◎
⑤「クリーン作戦・グリーン作戦」に外来種対策をプラスすることを呼びかけます。		◎					◎
目標6. 希少になった生きものや生態系の保護対策が進められています。							
①希少動植物種に対する知識を深め、効果のある対策を実施します。			◎	◎			◎
②豊岡版レッドリストを用いた学習会を開催します。			○				◎
③希少動植物種の保全に関わる人材を育成・確保します。			◎	◎			◎
④希少動植物種を保全します。		○	◎	◎			◎
⑤生態系に悪影響を及ぼす有害生物への対策を推進します。							◎

◎ 特に主体となるコミュニティ

団体：市民団体、NPO等
 専門家：研究者、大学等
 事業者：企業、商店等

〈作戦3〉「基盤を守る」作戦! 地域を支える第一次産業を育てます。	関係するコミュニティ活動						
	学校・PTA	地域・市民	団体	専門家	農林水産業	事業者	行政
目標1.安心して第一次産業に従事できる基盤が作られています。							
①農林水産業に悪影響を及ぼす有害生物への対策を強化します。							◎
②田んぼや水路等の水辺における生態系機能を高めます。			○		◎		◎
目標2.田んぼの生態系が豊かになっています。							
①「豊岡市農業ビジョン」に基づき、農業や化学肥料に頼らない農法を拡大します。					◎		◎
②田んぼづくりに関する意識改革に取り組みます。			○		○		◎
目標3.市民や消費者と交流する生産者の顔が輝いています。							
①生産者と市民との交流機会を増やします。		○	○		○	◎	○
②生産者と全国の消費者との交流機会を増やします。					◎	◎	○
目標4.地元で採れたものを優先して食べる人が増えています。							
①地元産品を扱う店舗や料理店の数を増やします。					◎	◎	
②「コウノトリの舞」認証品をはじめとした地元産品を選んで購入する市民を増やします。		○			◎	◎	◎
③学校給食における地元産品利用割合の更なる増加に取り組みます。					◎		◎
④保育園・こども園の給食等における地元産品利用割合の増加に取り組みます。					◎		◎
目標5.豊かな森が、里、川、海を育んでいます。							
①自伐型林業に携わる人を増やします。					◎		◎
②山と海とのつながりの認識を深め、林業従事者と水産事業者等の交流を進めます。		◎	◎		◎		◎
目標6.漁港に元気な声が響き渡っています。							
①海の生態系保全・回復に向けた取組みを推進します。					◎		◎
②プラスチックごみが生態系に与える影響を周知し、その対策を講じます。		◎					◎
目標7.第一次産業を担う若い世代を育成します。							
①環境に配慮した農業体験活動等を通して、子どもたちに第一次産業の魅力を伝えます。	◎	○			◎		○
②若手就職希望者に向けて、第一次産業の魅力を伝えます。					◎		◎
③「豊岡農業スクール」などによる就農支援を行います。					○		◎
④第一次産業への従事を希望するUIターン者の相談に応じられる体制を構築します。					◎		◎

〈作戦4〉「つながる・つなげる」作戦! 人と人、地域と人とのつながりを深めます。	関係するコミュニティ活動						
	学校・PTA	地域・市民	団体	専門家	農林水産業	事業者	行政
目標1.自然の中で遊ぶ子どもの姿が増えています。							
①自然とふれあう活動を充実させ、子どもの野生復帰も進めます。				◎			◎
②地域の方が講師となって各地域で「自然遊び教室」を実施します。		◎					
目標2.親子で生きものや自然に触れ合う機会が増えています。							
①PTAや子ども会の行事等に、生きもの調査や自然観察を取り入れます。	◎	◎					
②生きものや自然に触れる親子イベントを数多く企画します。		◎	◎				◎
目標3.地域の文化や伝統的な知恵・技が受け継がれています。							
①祭事を通じて地域の文化や自然へのまなざしを醸成します。		◎					◎
目標4.交流施設では、楽しい声が弾んでいます。							
①生物多様性について学び体験できるプログラムを充実させます。		◎	◎				◎
②生物多様性に関係のある事業に取り組めるよう支援します。			◎				◎
目標5.豊岡の豊かな自然を知った人々との交流が深まっています。							
①コウノトリ野生復帰の取組みに参加する人や企業・団体を増やします。		○	○		○	○	◎
②野生復帰の取組みや自然に共感して訪れる人と地域住民との交流機会を増やします。		○	○		○	○	◎
③コウノトリが飛来した地域の人々と交流し、生きものを大切に取る取組みを広げます。		◎	◎				○
④豊岡の魅力を語る子どもたちを増やします。	◎	○					◎
⑤海や山の保全活動に対して、さまざまな団体が参加・交流する機会を創出します。							◎
⑥生物多様性に富んだ森里川海の魅力を伝え、多くの人が訪れるように取り組みます。					◎	◎	

〈作戦5〉「効果を高める」作戦! 作戦を実行しやすい仕組みを作ります。	関係するコミュニティ活動						
	学校・PTA	地域・市民	団体	専門家	農林水産業	事業者	行政
目標1.行動のすべては、「見直し」の手法で実践されています。							
①PDCAサイクルの手法を取り入れます。							◎
目標2.この戦略の実践を支える拠点が機能しています。							
①戦略推進委員会や定期的な情報交換を行う機会を設けます。		○	○	○			◎
②地域の保全活動と外部人材をつなぐ仕組みを確立します。			◎				◎

作戦 ① 「まずは知る」作戦！

地域みんなが、地域の自然の豊かさやもろさを分かるようにします。

目標1 生きものの様子から季節の変化を感じ取り、その話題で会話が弾んでいます。

目標を実現するために

- 1 豊岡に住む動物や植物の市民調査を実施します。
- 2 豊岡らしい季節のことばを集めた「豊岡時候のあいさつ集」を作成します。

全国共通の時候の挨拶ではなく、豊岡ならではの季節のことばを集めます。あいさつ集は、手紙や葉書等さまざまなシーンで活用し、普段の生活のなかで生きものの様子を感じられるようにします。

- 3 季節の特徴的な動物や植物の観察会を開催します。
- 4 「生きもの共生の日¹⁾」を浸透させます。

目標2 「生きもの博士」と呼ばれる人が増えています。

目標を実現するために

- 1 「豊岡生きもの博士」の登録制度を開設します。

動物や植物に詳しい人を発掘し、「豊岡生きもの博士」として登録します。登録された「豊岡生きもの博士」は、地域の環境保全活動等で中心的な役割を担うことを期待します。

- 2 継続的な観察会等を通じて「生きもの博士」を育成します。
- 3 子どもたちにさまざまな自然体験の場を提供し、未来の「生きもの博士」を育成します。
- 4 豊岡の環境保全に寄与する研究活動を支援します。

豊岡の生物多様性について研究する裾野を広げるために、高校生等地域研究支援事業を充実させるとともに、大学生や大学院生に対しても研究の支援を行います。

用語解説

1) 生きもの共生の日(2008年3月、豊岡市)

2007年5月20日、日本の野外で43年ぶりにコウノトリのヒナがかえりました。そのことを忘れないように、5月20日を「生きもの共生の日」に決めました。

目標3 地域の生きものの現状をみんなが知っています。

目標を実現するために

1 アプリ等を活用して、生きもの情報の見える化を図ります。

既存の生きもの観察アプリ等を活用して、市内の生きものの生息状況の把握に取り組み、情報の見える化を図ります。

2 見える化された生きもの情報を公共工事や自然再生の取組みに活用します。

3 「コウノトリ市民科学²⁾」等を活用し、情報を収集・発信します。

4 森里川海のつながりを知り、生態系への理解を深めます。

私たちの暮らしを支えている数多くの自然の恵みが、「森」「里」「川」「海」のつながりによって維持されていることについて、“市民が知る”取組みを実施します。

目標4 小学校区ごとに「生きもの地図」が備えられています。

目標を実現するために

1 地域や学校と連携して、地域の「生きもの地図」の作成に取り組みます。

地域の景観も含め、自然の移ろいに気づいたり、それらを住みやすい地域づくりにつなげるために、地域の生きもの情報を整理した「生きもの地図」の作成を進めます。

2 「生きもの地図」の作成、活用に関する支援を行います。

用語解説

2) コウノトリ市民科学(市民参加によるコウノトリのモニタリング)

市民参加型のコウノトリのモニタリング調査で、日本コウノトリの会・東京大学・中央大学の協働プロジェクトとして進められています。全国の調査員から送られてきたコウノトリの目撃情報が、ウェブサイト上で広く分かりやすく公開されています。

作戦 ② 「行動に移す」作戦！

多様な生きものが住みやすい環境を増やします。

目標1 行政も地域も、生きものに配慮した行動を心がけています。

目標を実現するために

1 県が策定した「生物多様性配慮指針³⁾」を公共事業や自然再生の取組みに活用します。

2 生物多様性保全のためにも「豊岡市景観計画⁴⁾」を推進します。

3 生物多様性を意識した行動をとる市民を増やします。

環境に配慮した商品を購入したり、散歩のときにごみを拾うなど生物多様性を意識した行動をとる市民を増やします。

4 生物多様性の保全に取り組む企業・団体等を増やします。

投資先や取引先として選ばれるために、自然環境の保全や脱炭素社会の実現に貢献することが世界の潮流となっていることを周知します。

5 里山や水辺等で小さな自然再生⁵⁾の取組みを進めます。

多くの恵みを与えてくれる里山や水辺を増やすため、楽しみながら自然再生に取り組む市民を増やします。

用語解説

3) 生物多様性配慮指針(2011年3月、兵庫県)

自然改変を伴う事業や生物多様性に影響を及ぼす可能性がある事業等を行う際、生物多様性保全のためにどのような配慮が必要であるかを示した手引書です。

4) 豊岡市景観計画(2012年8月、豊岡市)

先人から受け継いだ「豊岡らしい風景」を未来に継承するため、市、市民、事業者が協働して豊岡らしい景観を守り育てようとする計画です。

5) 小さな自然再生

公共工事のような大規模な自然再生事業ではなく、地域住民等が主体となり、日曜大工感覚で身近な自然再生に取り組む「小さな自然再生」が注目されています。

豊岡市では、活動に対する助成金を交付し、小さな自然再生活動を推進しています。

目標2 豊岡で暮らすコウノトリたちが、安定して生活しています。

目標を実現するために

1 コウノトリの生息環境の質を向上させます。

コウノトリの個体数が増加してもコウノトリが安定して生息できるよう、たくさんの生きものが生息する環境を創出します。

2 見守り等を通じて、野外的コウノトリと地域との関わりを生み出します。

コウノトリの受傷原因であるテグスや防獣ネットの適正な管理に努めるなど、愛情をもってコウノトリを見守る風景を増やします。また、傷病鳥への対応方針についても、市民へ周知を図ります。

3 「豊岡自然再生アクションプラン⁶⁾」に基づき、地域と連携した自然再生に取り組みます。

目標3 市街地・住宅地でも多くの生きものと触れ合えています。

目標を実現するために

1 プランターや庭で緑を生み出します。

2 神社や公園が緑や生きものの拠点として機能するよう維持します。

3 公共施設や都市公園等を「水と緑の回廊⁷⁾」として機能させます。

用語解説

6) 豊岡自然再生アクションプラン(2018年3月、豊岡市)

豊岡の豊かな自然環境を取り戻すための計画で、これまでに蓄積された繁殖状況等に関するさまざまなデータを科学的に整理・解析することによって、効率的に自然再生を實踐できると想定される地域を抽出しました。本計画は、それらの地域において、地域の特性にあった自然再生活動を考え、人と自然が共生できる地域づくりを市民自らの手で行うことを目的としています。

7) 水と緑の回廊

生きものへの配慮に欠けた開発等により、生息場や移動経路が分断されることがあります。市街地に存在する水路や緑地を生きものに配慮した環境にすることで、分断された生息環境を繋ぐ回廊としての機能をもつこととなります。

目標4 生物多様性の保全が図られている区域が増えています。

目標を実現するために

1 生物多様性の保全が図られている区域を拡大します。

30 by 30⁸⁾ の実現に向け、市内に存在するOECEM⁹⁾ の国際OECEMデータベースへの登録を推進します。

2 ラムサール条約¹⁰⁾ 登録エリアにおける保全やワイズユースの取組みを充実させます。

3 地域や学校教育で豊岡が国際的評価を得ている地域であることへの理解を深め、誇りを醸成します。

目標5 在来の生態系を乱す外来種の侵入・増加を防いでいます。

目標を実現するために

1 生態系に影響を及ぼす外来生物の駆除方針を定めます。

2 外来生物に対する知識を深め、効果のある対策を講じます。

すでに豊岡市に定着しているアメリカザリガニやミシシッピアカミミガメなどの外来生物に対して、生息数を減少させる効果的な対策を講じます。

用語解説

8) 30 by 30 (サーティ・バイ・サーティ)

2022年12月の生物多様性条約第15回締約国会議において採択された国際目標で、締結国それぞれで2030年までに陸と海の30%以上を保全されたエリアとすることを目標にしています。

9) OECEM (Other Effective area-based Conservation Measures) (オー・イー・シー・エム)

「法的な保護地域ではないが、効果的な環境保全が行われている場」のことであり、30by30目標の達成に向けて、主要な施策として期待されています。

具体的には、環境整備が適切に実施されている企業敷地や都市の緑地、ビオトープ、市民団体等により保全が行われる里山・湿地などが想定されています。

10) ラムサール条約(1972年)

世界的に重要な湿地を評価し、保全するための国際条約で、国家間で協力して水辺の自然を守っていくことを目的としています。湿地の「保全・再生」と「賢明な利用(ワイズユース)」、そして「交流・学習(CEPA)」を3つの柱としています。

国内では、湿原や河川のほか、田んぼや池、干潟、サンゴ礁(干潮時の水深6mまでの海岸)等、53か所(2022年12月現在)が登録されています。

豊岡市では、河川、人工湿地、田んぼ、海岸等を含む「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約に登録(2012年、2018年拡張)されており、コウノトリをはじめとする希少な生きものを育てています。

3 豊岡版ブラックリストを用いた学習会を開催します。

外来種などの豊岡本来の生態系に影響を及ぼす生きものをまとめた「豊岡版ブラックリスト」を用いて、出前講座等を行います。

4 外来生物への対策を強化するエリアを決め、積極的に駆除します。

5 「クリーン作戦・グリーン作戦」に外来種対策を加えることを呼びかけます。

企業・団体や市民に、オオキンケイギクなどの外来植物駆除への協力を呼びかけます。

目標6 希少になった生きものや生態系の保護対策が進められています。

目標を実現するために

1 希少動植物種に対する知識を深め、効果のある対策を実施します。

2 豊岡版レッドリストを用いた学習会を開催します。

豊岡で希少になった生きものや生態系をまとめた「豊岡版レッドリスト」を用いて、出前講座等を行います。

3 希少動植物種の保全に関わる人材を育成・確保します。

4 希少動植物種を保全します。

5 生態系に悪影響を及ぼす有害生物への対策を推進します。

「ノアの方舟¹¹⁾」作戦などの効果検証を行うことにより、作戦の改善を図り、引き続き、希少になった生きものの保全活動の強化及び鳥獣害対策を推進します。

用語解説

11) ノアの方舟(2014年度～、豊岡市)

シカなどの食害から、希少植生や林床、希少なチョウ類の食草を保護するための防護柵を設置しています。市内では、9か所10,956㎡(2022年度現在)で実施しています。

作戦 ③ 「基盤を守る」作戦！

地域を支える第一次産業を育てます。

目標1 安心して第一次産業に従事できる基盤が作られています。

目標を実現するために

1 農林水産業に悪影響を及ぼす有害生物への対策を強化します。

2 田んぼや水路等の水辺における生態系機能を高めます。

水田魚道やマルチトープ、冬期湛水、中干延期等が持つ生態系機能の周知を進めるとともに、取組みの推進を図ります。

各取組みが持つ生態系機能の一例

水田魚道：水田と水路をつなぐことで水田で魚が産卵できる

マルチトープ：中干期における生きものの避難場所となる

冬期湛水：水生生物が越冬することができる

中干延期：オタマジャクシがカエルになるまでの時間を確保できる

目標2 田んぼの生態系が豊かになっています。

目標を実現するために

1 「豊岡市農業ビジョン¹²⁾」に基づき、農薬や化学肥料に頼らない農法を拡大します。

環境負荷を軽減し、生物多様性の保全に寄与する「豊岡型環境創造型農業¹³⁾」への取組みを進めます。

2 田んぼづくりに関する意識改革に取り組みます。

田んぼがお米を生産する場だけでなく、生きものにとっても繁殖の場となっているという理解を促進します。

用語解説

12) 豊岡市農業ビジョン(2020年3月、豊岡市)

担い手の高齢化やその他の農業に関する課題に対して、今後10年間で「豊岡で農業をする価値」と「豊岡の農業の価値」をどのように高めていくのかの基本的視点と方策をまとめたものです。

13) 豊岡型環境創造型農業

環境への負荷を軽減するため、化学肥料や農薬の使用を一般栽培の50%以上低減する農業です。

目標3 市民や消費者と交流する生産者の顔が輝いています。

目標を実現するために

1 生産者と市民との交流機会を増やします。

出前講座などの積極的な活用を促し、市民が農林水産業従事者の声を聞き、地元の一次産業を知る機会を創出します。

2 生産者と全国の消費者との交流機会を増やします。

全国の消費者に対して豊岡の農林水産業の魅力をPRするとともに、農業体験などを通じて農林水産業の魅力実感できる機会を増やします。

目標4 地元で採れたものを優先して食べる人が増えています。

目標を実現するために

1 地元産品を扱う店舗や料理店の数を増やします。

2 「コウノトリの舞¹⁴⁾」認証品をはじめとする地元産品を選んで購入する市民を増やします。

「コウノトリの舞」認証品をはじめとする地元産品の価値の周知に努め、多くの市民が率先して購入するよう働きかけます。また、ふるさと納税の返礼品における認証品の取扱いを増やします。

3 学校給食における地元産品利用割合の更なる増加に取り組みます。

学校給食における地場産品の使用割合は、毎年、「とよおか教育プラン」において目標が設定されます。その目標を達成できるよう努めます。

4 保育園・こども園の給食等における地元産品利用割合の増加に取り組みます。

用語解説

14) 「コウノトリの舞」認証制度(2003年度～、豊岡市)

安全・安心な食を求める消費者のニーズにこたえるため、環境に配慮した栽培技術の導入によって、安全・安心な農産物及び農産加工品を生産する団体を「コウノトリの舞」農産物等生産団体として認定し、認定団体が生産する農産物等は、認定ロゴマークを貼付して出荷されています。

目標5 豊かな森が、里、川、海を育んでいます。

目標を実現するために

- 1 自伐型林業¹⁵⁾に携わる人を増やします。
- 2 山と海とのつながりの認識を深め、林業従事者と水産事業者の交流を進めます。

目標6 漁港に元気な声が響き渡っています。

目標を実現するために

- 1 海の生態系保全・回復に向けた取組みを推進します。

藻場の造成や海辺の清掃活動等の取組みを市民の参加を得ながら進めます。また、市内の漁業におけるMSC認証制度¹⁶⁾導入の可能性について情報収集に努めます。

- 2 プラスチックごみが生態系に与える影響を周知し、その対策を講じます。

目標7 第一次産業を担う若い世代を育成します。

目標を実現するために

- 1 環境に配慮した農業体験活動等を通して、子どもたちに第一次産業の魅力を伝えます。
- 2 若手就職希望者に向けて、第一次産業の魅力を伝えます。
- 3 「豊岡農業スクール¹⁷⁾」等による就農支援を行います。
- 4 第一次産業への従事を希望するUIターン者の相談に応じられる体制を構築します。

用語解説

15) 自伐型林業

採算性と環境保全を高い次元で両立する持続的森林経営です。大規模な皆伐ではなく、こまめな間伐を繰り返し行うことで、森林環境の維持に貢献します。また、敷設する小規模作業道による土砂災害の防止や自伐型林業者が同じ山林に張り付くことによる獣の侵入防止等さまざまな効果を持っています。

16) MSC認証制度(1998年度～、MSC(Marine Stewardship Council:海洋管理協議会))

水産資源と環境に配慮し適切に管理された持続可能な漁業を目指した認証制度で、①資源の持続可能性、②漁業が生態系に与える影響、③漁業の管理システムの原則に基づく厳格な認証規格を満たした漁業に対して「MSC漁業認証(通称:海のエコラベル)」が付与されます。消費者が認証の付いた水産物を選ぶことで水産資源を守ることに繋がります。

17) 豊岡農業スクール(2013年度～、豊岡市)

新規就農者と農業後継者の確保・育成を目的に、就農意欲の高い者を対象として、先進的な農業経営者のもとで技術や経営力などを習得するためのプログラムです。

作戦 4 「つながる・つなげる」作戦！

人と人、地域と人とのつながりを深めます。

目標1 自然の中で遊ぶ子どもの姿が増えています。

目標を実現するために

1 自然とふれあう活動を充実させ、子どもの野生復帰も進めます。

コウノトリ文化館や植村直己冒険館、ハチゴロウの戸島湿地、加陽水辺公園などを核として、自然を活用した体験プログラムの開発及び推進を行います。

2 地域の方が講師となって各地域で「自然遊び教室」を実施します。

地域の方が中心となって「自然遊び教室」の講師を務めることで、子ども世代に自然との関わり方を伝えるとともに、住民同士の交流を深めます。

目標2 親子で生きものや自然に触れ合う機会が増えています。

目標を実現するために

1 PTAや子ども会の行事等に、生きもの調査や自然観察を取り入れます。

PTA行事や子ども会行事で行う自然観察会などが継続的に実施されるように、「出張！田んぼの学校¹⁸⁾」等の支援制度の活用を促します。

2 生きものや自然に触れる親子イベントを数多く企画します。

目標3 地域の文化や伝統的な知恵・技が受け継がれています。

目標を実現するために

1 祭事を通じて地域の文化や自然へのまなざしを醸成します。

市内で実施されている祭事の中には、自然と人の関りが起源となっているものが多くあります。これらの祭事がこれからも伝承されるよう支援します。

用語解説

18) 出張！田んぼの学校(2009年度～、豊岡市)

身近な水田や水路、里山等で生きものとの触れ合いを通じた観察会や学習会をする際に、生きものに詳しいスタッフを派遣する制度です。

目標4 交流施設では、楽しい声が弾んでいます。

目標を実現するために

- 1 生物多様性について学び体験できるプログラムを充実させます。
- 2 生物多様性に関係のある事業に取り組めるよう支援します。

地域コミュニティの取組みを積極的に応援し、出前講座や講師派遣等の支援を充実します。また、地域の人々が活動への参加を通じて、まちづくりのために集まるきっかけとなるよう働きかけます。

目標5 豊岡の豊かな自然を知った人々との交流が深まっています。

目標を実現するために

- 1 コウノトリ野生復帰の取組みに参加する人や企業・団体を増やします。
- 2 野生復帰の取組みや自然に共感して訪れる人と地域住民との交流機会を増やします。
- 3 コウノトリが飛来した地域の人々と交流し、生きものを大切にする取組みを広げます。
- 4 豊岡の魅力を語れる子どもたちを増やします。

ふるさと教育¹⁹⁾ やコウノトリKIDSクラブ²⁰⁾ の活動等を通じて、ふるさと豊岡への理解を深めます。

- 5 海や山の保全活動に対して、さまざまな団体が参加・交流する機会を創出します。
- 6 生物多様性に富んだ森里川海の魅力を伝え、多くの人を訪れるよう取り組みます。

用語解説

19) ふるさと教育(2017年度～、豊岡市)

小学校3年生から中学校3年生において、「コウノトリ」・「ジオパーク」・「産業・文化」を共通の学習課題として、体験活動やさまざまな人との出会いから主体的に学ぶ探求的な学習を行っています。

20) コウノトリKIDSクラブ(2010年度～、豊岡市)

小学校4～6年生児童を対象にした学年や学校を超えた活動団体で、生きもの調査などを通じてコウノトリとその生息を支える豊岡の自然について学び、発信できる子どもを育てることを目的としています。

作戦 ⑤ 「効果を高める」作戦！

作戦を実行しやすい仕組みを作ります。

目標1 行動のすべては、「見試し」の手法で実践されています。

目標を実現するために

1 PDCAサイクル²¹⁾の手法を取り入れます。

環境意識に関する市民アンケートを実施し、取組みの進捗状況や課題等の把握に努めます。また、その結果を本戦略に反映させ、PDCAサイクル²¹⁾に活用します。

目標2 この戦略の実践を支える拠点が機能しています。

目標を実現するために

1 戦略推進委員会や定期的な情報交換を行う機会を設けます。

生物多様性短期戦略推進委員会（仮称）を設置し、取組状況について検証できる体制を整備します。また、個別の課題について協議する場を設けます。

2 地域の保全活動と外部人材をつなぐ仕組みを確立します。

農業や地域の環境保全活動など、人手を必要とする活動と人材をつなげる組織の設置について検討します。

用語解説

21) PDCAサイクル

Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を繰り返すことによって、ものごとを継続的に改善し、品質や生産性を向上させていく手法のことです。

第2章 地域戦略の目指すべき姿の達成に向けた短期目標

豊岡市生物多様性地域戦略で掲げた『穏やかにいのちと地域が響きあう豊岡』の達成に向け、短期戦略Ⅲ（2023年度～2027年度）で達成すべき短期目標を掲げる。

短期目標	2021年度 現状値	2027年度 目標値※1
作戦①「まずは知る」作戦！		
「生物多様性」という意味を理解している人の割合	※2 29.4%	50%
2013年9月に策定された「豊岡市生物多様性地域戦略」を知っている人の割合	16.2%	50%
「豊岡生きもの博士」として登録されている人数	0人	25人
生きもの調査や環境教育等の実施件数	24件	50件
作戦②「行動に移す」作戦！		
陸域における保護地域及びOECM(国際データベース登録)の占める割合(内水面含む)	28%	31%
豊岡版レッドリスト及び豊岡版ブラックリストを用いた学習会の開催回数	0回	5回
外来種駆除対策の実施件数	3件	15件
小さな自然再生保全活動支援の活用件数	7件	15件
作戦③「基盤を守る」作戦！		
豊岡型環境創造型農業作付面積(水稻)比率	38.1%	51%
豊岡農業スクール(2013～)延べ入学者数	25人	53人
学校給食における豊岡産無農薬米の導入比率	0%	100%
自伐型林業に従事している人数	0人	5人
環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合	※2 69.3%	80%
海岸における清掃活動の実施件数	4件	10件
作戦④「つながる・つなげる」作戦！		
コウノトリ文化館 来館者数	55,393人	250,000人
コウノトリ基金 寄付金額	6,695千円	15,000千円
生物多様性保全活動などを通じて、子どもたちが他地域と交流した回数	4回	10回
作戦⑤「効果を高める」作戦！		
戦略推進委員会の開催回数	0回	2回

※1：目標値は、2027年度(単年)における実績を示す。

※2：国が実施した調査による国民の参考数値

豊岡市生物多様性地域戦略 第3期短期戦略策定委員会

委員名簿（敬称略）

氏名	所属	備考
学識経験者		
菊地 直樹	金沢大学	委員長
出口 智広	兵庫県立大学大学院	副委員長
市民		
菅村 定昌	NPO法人コウノトリ市民研究所	
田中 陽介	Dive Resort T-style	
永瀬 倅大	日本コウノトリの会	
名城 千鶴	Next Green但馬	
西垣 由佳子	但東野あそびくらぶ いつなっと	
森本 莉永	地域おこし協力隊（農業） COARS	
行政関係者		
高橋 佳大	環境省近畿地方環境事務所 竹野自然保護官事務所	
藤田 楓加	兵庫県但馬県民局 豊岡農業改良普及センター	

豊岡市生物多様性地域戦略 第3期短期戦略策定委員会

委員会開催状況

日時	概要
2022. 8. 18	第1回策定委員会
2022. 10. 13	第2回策定委員会
2022. 12. 9	第3回策定委員会
2023. 1. 12～2023. 1. 25	パブリックコメント
2023. 2. 14	第4回策定委員会

豊岡市生物多様性地域戦略

－短期戦略Ⅲ－

発行

2023年3月 豊岡市

兵庫県豊岡市中央町2-4

TEL 0796-23-1111

URL <http://www.city.toyooka.lg.jp>
